

沙羅の樹文庫たより



田島征三・作 ポプラ社刊 2012
(日・中・韓 平和絵本)

伊豆高原在住の絵本作家の手による
平和への祈りをこめた心に残る絵本です。
戦争に向きあえる8月、おとなも子どもも
読んでほしいです。

八月十五日

きょうはだいじせかい大せんのお
わった日と聞いて かみさまに
こう言いました
「かみさま せんそうでしんでしまった
人たちをしあわせにくらせて下さい」
松村郁杜(宇都宮市・小2)

『202 人の子どもたち』
(長田弘・選 中央公論新社)

◆2012・文庫の後半の催し物◆

○秋の夜長のおはなし会○

10月20日(土) 午後5:00~7:00(おとなの人向け)
ゲスト 朗読:

☆屋下がりのひととき読書会☆

(好きな本についておしゃべりしましょう no.2)
11月18日(日) 午後3:00~5:00

★★クリスマス・おはなし会・お楽しみ会★★

12月16日(日)予定

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆8月は、16日(木)~19日(日)

☆開館時間は午後1:00~5時です。日曜
のみ午前10:00~午後3:00。ご注意下
さい。

◆9月は通常15日(土)、16日(日)

◆10月は通常20日(土)、21日(日)

◆11月は通常17日(土)、18日(日)

※文庫の時間:5月、8月を除いては、土
曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10
時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものた
めの小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・
頑張っておはなし》

おはなし・沙羅の勉強会は

毎月第3土曜11:00~13:00

おはなししてみたい方、聞いてみたい方、ぜひご
参加ください。

文庫あれこれ◆少し早めにこちらに来ました。
玄関のドアをあけたら、一面、蜘蛛の巣。外のホ
ウキで大きくはらって入る始末。孫に言わせると
蜘蛛はほかの悪い虫を食べてくれるのだから殺し
てはだめ、だそうです、とにかく苦手(ほかの虫も)
です。◆今月も寄贈本(ウッドデッキにビニールシー
トをかぶせてあった青木さんからいただいた本も整
理をはじめました)たくさん。児童書はいつもの広瀬
さんから新しい本ばかり50冊以上。400冊以上いた
だいていた吉祇さんからの残りの本も手入力分が終
わってやっと全部提供となりました。◆ほかに、S
さんからの古い(出版年)けどよい本も徐々に入力し
てご覧いただけます。◆文庫の本はみなさんの寄贈
によって本当にずいぶん増えました、感謝いたしま
す。それなのにこんなことを言って申し訳ないの
ですが、文庫の広さを考えると、すでに手一杯です。
だからと言って新しく出た本はほしいです。大人の
本が増えたために子どもの絵本の部屋を別途設けま
したが、これ以上は、個人的にはスペース的にも金
銭的にも余裕がありません。◆そこで、寄贈として
お持ちいただく本は、当方の自由にさせていただく
(文庫に置く、どなたかに差し上げる、廃棄する、な
ど)ことでお許しください。◆8月は、原爆、終戦に
想いを起すイベントが多く見られます。私の所属
しているおはなし会では、今年も戦争と平和にちな
んだお話会がありました。昨年5月、若葉のころの
おはなし会に来てくれた山形・新庄の渡部豊子さん
が語り手でした。渡部さんは、新庄の古老から様々
な戦争体験を聞き書きして本にしています。その中
の一人の方はニューギニアで死に行く仲間(昔話
(東北の)を語ったそうです。ふるさとに息づくほら
話、つや話、嫁いびり話等々。ひとときの安楽を与
えることができた昔話の力に驚いたそうです。8月
のおすすめコーナーに並べておきます、読んでみて
ください。◆12日午後現在、ちょっと日が輝き青空
が見えます。◆学生に混じってバドミントンを続け
ている夫から、医学部の大会で夫の大学の女子学生
が個人優勝、団体準優勝、と喜びの電話。このと
ころ減入っている私も空の色のよう、少し、気持ち
が明るくなりました。今週、天気になるといいなっ!

いなっ◆15日夜、尖閣諸島のニュース衝撃!(西村)

伊豆高原たより No.7

～肉声で届ける野外のおはなし会～

文庫開館当初からの会員みなさんにご存知のことと思いますが、その後入られた方には、文庫便りに記載はあるものの中身は知らないのではないかと思います。改めてお知らせし関心をもっていただこうと、思います。

「海の日のおはなし会」

そもそもここに文庫を作ろうと考えたのはこのおはなし会が発端です。12年前に東京の代々木公園で初めて子どものための野外おはなし会を行いました。それが



とても素晴らしく自然の中で語り手と聴き手がひとつになって不思議な世界をつくりました。いつもの伊豆高原駅に降り立ち、大きな楠のある広場を見て、ここでもあの世界が持てる、と思いました。当時、伊豆急やまもプラザの事務所にいらした鈴木さんに直談判して、彼のサポートと、伊豆急の後援をとりつけたのが、12年前2001年のことです。爾来、今年で12回を迎えました。東京以北の語り手の友人に常連になってもらい、時には地元の語り手さんとのコラボもやりつつ、6年前に沙羅

の樹文庫を開館していただき、そのうちのように、今です。頼もしい限りで一生懸命おはなしを囲まれ大きな木を這



ゆく空を見ながら、手に届ける妙味を体験するからです。それは聴き手が受けとめてくれないと成り立たないことなのです。おらかな自然が両者を包み込み夕闇迫るころ、物語の世界がみんなの心に余韻を残しながら溶けていきます。読書とまた違う醍醐味があります。来年はあなたもぜひおでかけください。このおはなし会が伊豆高原の風物詩になれば、と願って続けて

写真右は開館記念

お借りした本についての感想

2012年8月11日 By 森林浴

今月は西村さんが7月の「文庫便り」に紹介されていたポプラ社の「100年文庫」100冊から6冊もお借りしたので、その中の作品の幾つかを読んだ感想です。年をとると分厚くて小さな字でぎっしり印刷してある本はなかなか読む気がおこらないものですが、この本はどれも150ページからせいぜい200ページで、しかも字が大きく、短編小説ばかり3篇ですから、とても読みやすい。しかも有名作家の作品ばかりなのに、あれ、この本はまだ読んだことがなかったな、と思うことが多くてわくわくします。

1. 28の中 勘助「島守」

「甚だ人間嫌いになった」作者が、明治44年9月23日から10月17日まで、信州の北の果て野尻湖の中の小さな弁天島の神社のお堂に一人籠ったその日記。有名な「銀の匙」は同じ頃、野尻湖畔の農家に籠って幼少期の記憶を綴った作品だそうだ。丁寧で生き生きした自然描写が素晴らしい。

2. 28の永井荷風「雨瀟瀟」

この短編では、江戸時代から連綿と受け継がれてきた伝統文化を偏愛し、安っぽい新規な文明・文化を嫌う偏屈人永井荷風がその思いを綿々と綴っている。漢詩が沢山出てくると思えば、フェルナングレイのフランス語の原詩も出てくる。明治の文人は漱石・鴉外などもそうですが和洋に亘る知識を持った大変な教養人だった。「瀟瀟」なんて字は我われには書けませんよね。

3. 72の小川国夫「心臓」

小川国夫は私の大好きな作家。文庫にある長編の「弱い神」もいいものですが、この小品も初々しい官能の匂いが若葉のように匂って棄て難い味がありますね。

4. 72の龍胆寺 雄「蟹」

親の愛に見放された孤独な中学生の男の子と女の子がふとした機会に海沿いの寂れた工場跡地で知り合い、石垣の隙間に作った小魚などの「動物園」を中心に交わす会話と友情がなんともいじらしく物悲しい。最期に女の子が遠くに行ってしまうこととなり、別れがやってくる。「瓦斯会社の汽笛がポーと太く霞んで、霧の奥から響いて来た。」というあたりは、黑白映画の最終画面にしたら実によさそうだ。

5. 43のフィリップ「帰宅」

「フィリップ」は、私が何と高校生のとき受けた模擬試験問題に彼のある小説の一部が引用されていたこと

5. 43のフィリップ「帰宅」

ことで名を覚えた作家です。試験を受けながら、なんというしっとりした好ましい文章かなと感嘆して、それから60年以上経ってやっと彼の作品をゆっくり読むことが出来、とても幸せです。特にこの短編は名もない庶民の哀歓を描いて、何度よんでも泣かせる名作です。

6. 43の坪田譲治「甚七南画風景」

「死ぬる前に、この世の一木一草にも名残を惜しもうとする」ようにも見える80歳の甚七老人のなんとも閑雅、春風駘蕩たる田舎生活、最期には疲れて縁側に横になり、夢を見ながら鼾をかいて眠り始める、そしてそのままあの世に行ってしまう、ああなんという羨むべき優雅な死に方！

7. 3の林 美沙子「馬乃文章」

小説家志望の主人公は漱石先生にあやかって「草石」という文名なのだが、その小説はまったく売れない甲斐性なし。貸家を追い出されて同じような境遇の友人

しあわせは 笑顔から

平和は 思いやりから

やすらぎは 感謝から

しあわせを求めるなら 耐えよ

喜びを求めるなら 辛抱せよ

生きてゆくなら 努力せよ

亡くなった母の、いつも持っていた手帳の間に挟まれていました。どこかから書き写したものでしょうか。自分のいたるなさを母に戒められている気がします。

(さ・ら)

やすらぎは 感謝から

しあわせを求めるなら 耐えよ

喜びを求めるなら 辛抱せよ

生きてゆくなら 努力せよ

こんな本もはあったよ!

2012年8月入庫の寄贈本

絵本:

『また あしたね』『ただいま』(きたやまようこ/さく 偕成社) 『はなびドーン』(カズコ・G・ストーン/さく 童心社) 『ふみきりカンカンなにがくる?』(西片拓史/さく 岩崎書店) 『ぱたぱたももんちゃん』『おいもさんがね...』(とよたかずひこ/さく 童心社) 『だっこ』(なかのひろみ・まつもとよしこ/さく アリス館) 『ぼーる ころころぼーん』(まついのりこ/さく 講談社) 『クーのおるすばん』(西内ミナミ/作 和歌山静子/絵すずき出版) 『とんとんとん だれですか』(はやしすすみ/さく 岩崎書店) 『モモンガのはいたつやさん』(ふくざわゆみこ/さく 文溪堂) 『ぼくとうようせいチュチュ』(かさいまり/作・絵 ひさかたチャイルド) 『もりのおるすばん』(丸山陽子/作 童心社) 『よるのふね』(山下明生/作 黒井健/絵 ポプラ社) 『たまごいすのにり』(井上洋介/作・絵 すずき出版) 『おひげ おひげ』(内田麟太郎/作 西村敏雄/絵 すずき出版) 『もうどう犬リーとわんぱく犬サン』(郡司ななえ/さく 城井文/絵 PHP) 『おおきな木のおはなし』(デパルマ/作 風木一人/訳 ひさかたチャイルド) 『あいうえおのうみで』(すぎはらともこ/作 徳間書店) 『だんごうおです』(平田昌広/作 平田泉/絵 徳間書店) 『オカのカオ』(谷川晃一/作 童心社) 『かっぱ』(杉山亮/作 軽部武宏/絵 ポプラ社) 『ひかるさくら』(帚木蓬生/作) 小泉るみ子/絵 岩崎書店 『希望の木』(カレン・リン・ウィリアムズ/作 リンダ・サポート/絵 PHP)

科学絵本:

『うみのかくれんぼ』『あげはのへんしん』(ひさかたチャイルド) 『みんなわくわく水族館 海の動物いっぱい編』『みんなわくわく水族館 お魚いっぱい編』(新日本出版社) 『さかなクンと中村征夫の大百科5いその生きもの・外洋の生きもの』『さかなクンと中村征夫の大百科6(夜の海の生きものたち)』(新日本出版社) 『夏をあそぼうー海野和男のみちかなしぜんふしぎ』(新日本出版

社)

『どうなってるの? からだのなか』『なぜなぜ?ふしぎ図鑑』(ひさかたチャイルド)

『あの日のことー東日本大震災 2011. 3. 11』(高橋邦典/写真・文 ポプラ社)

読み物(低学年)

『あまやどり』(市川宣子/作 文研出版) 『はじめてのゆうき』(そうまこうへい/作 小峰書店) 『がっこうかっぱのイケノオノ』(山本悦子/作 童心社) 『ねえ、おはなしきかせて』(原京子/作 ポプラ社) 『やくそくだよ、ミュウ』(小手鞠るい/作 岩崎書店)

読み物(中学年)

『タネオがきた』(すどうあさえ/作 文研出版) 『お父ちゃんの音や』(大野圭子/作 文研出版) 『あしたもきっとチヨウビより』(高田桂子/作 文溪堂) 『火の壁をくぐったヤギ』(岩崎京子/作 国土社) 『盆まねき』(富安陽子/作 偕成社)

読み物(高学年)

『シーラカンスとぼくらの冒険』(歌代朔/作 あかね書房) 『とびらの向うに』(かんのゆうこ/作 岩崎書店) 『まぼろしの薬売り』(楠章子/作 あかね書房) 『カメレオンを飼いたい』(松本祐子/作 小宗書店) 『おとうさんのバイオリン』(ほしおさなえ/作 徳間書店) 『ピアチュレ』(にしがきようこ/作 小峰書店) 『浪漫探偵社事件ファイル』(楠誠一郎/作 ポプラカラフル文庫) 『犬のおまわりさん』(飛鳥望/作 ポプラポケット文庫)

ノンフィクション読み物

『負けない!』(クルム伊達公子/作 ポプラ社) 『ステップ・ジョブズの生き方』(カレン・ブルーメンタール/作 あすなろ書房) 『心のおくりびとー東日本大震災復元納棺師』(今西乃子/作 金の星社) 『森がささやいているー木工家が見つめる木の命』(池田まき子/作 岩崎書店) 『時をこえるうた 漢詩』(八木章好/作 国土社) 『駄菓子屋のヒゲおじさんと考えることも哲学塾』(小川仁志/作)

♥寄贈くださった広瀬のおばさんに、ありがとう!

7月にあった海の日のおはなし会と開館記念子

子どものためのおはなし会でおはなしを

かたったおともだちの写真とプログラム



空奈ちゃん



朋樹くん



海帆ちゃん



幸樹くん



崇亘くん

ちいさなおばさん みずのそらな(5さい)

坊ちゃん おかだともき(1ねんせい)

やくにたつりゅう あきよしみほ(3ねんせい)

風の又三郎・春はあけぼの おかだこうき(5年生)

えんまさまと団十郎 あきよし隆弘(6年生)

☆☆☆☆

落語・道具屋 かたおかせいや(1ねんせい)

ネコが、ごはんのあとで顔をあらうわけ

おおはしゆい(6年生)



ゆりなちゃん



「びじゅつかんへ」

稲取小学校2年 稲岡郁音

八月のはじめごろに、いけだ20せいきびじゅつかんで、「世界の名画を描こう!」というもじゃ大会がありました。世界の名画の絵の中から、自ぶんのすきな絵をえらんでかいてよかったので、わたしは「化粧する母親」という絵にしました。その絵はいえのかたちのキャンバスに、かみのけをとかしている女の人がかいてありました。かべがみのバラのがらがわいかったので、その絵をかきたいとおもいました。色えんぴつをつかったら、時間がかかってたいへんでした。



はじめに、絵のまん中の女の人をかきました。つぎに、バスタブをかきました。かげで色がかわるころをくふうしてみました。

それから、かがみをかきました。かがみにうつった女の人のかおを、絵とおなじようにかくのがむずかしかったです。

さいごに、かべがみをかきました。バラの花がいっぱいあって、かくのに手がつかれていちばんたいへんでした。バラのいろをただのピンクにしないで、ピンクにムラサキをかさねたり、赤に青をかさねてみました。



たいへんだったけどたのしかったから、またらい年もやってみたいです。こんどはクレヨンか絵のぐでか

うとおもいます。ほかの人がかいた、もえるキリンの絵やバラのはなの絵といっしょに、八月二十六日までびじゅつかんにかざってあります。よかったらみてください。

えほん：

『また あしたね』『ただ今・・・』(きたやまようこ/さく 偕成社) 『へんなおばけ』(大森裕子/さく 白泉社) 『だれのたまご』(齊藤洋/さく 高島那生/え フレーベル館)

『なぞなぞのみせ』(石津ちひろ/なぞなぞ なかざわくみこ/え 偕成社) 『からだのなかには なにがある?』(キム・ヨンスク/文 キム・ユデ/絵 岩波書店) 『こおり』(前野紀一/文 斎藤俊行/絵 福音館書店)

『もりへぞろぞろ』(村田喜代子/作 近藤薫美子/絵 偕成社) 『よろしくともだち』(内田麟太郎/作 降矢なな/絵 偕成社)※「おれたちともだち」シリーズの最新ばんです!

『ぼくのこえがきこえますか』(田島征三/作 童心社)

よみもの：小学生低・中学年

『あたって、しあわせ!』(R・ラーゲルクラッツ/作 岩波書店) 『五月は花笠!—3年1組ものがたり』(後藤竜二/作 新日本出版社)

『菜の子先生の校外パトロール』(富安陽子/作 福音館書店) 『まぼろしの町(ニルスが出会った物語1)』

『風の魔女カイサ(ニルスが出会った物語2)』(セルマ・ラーゲルレーヴ/原作 菱木晃子/訳・構成 福音館書店)

読み物：高学年・ヤングアダルト

『ドレスを着た男の子』(デイヴィッド・ウォリアムズ/作 福音館書店)

『兵士のハーモニカ』(ジャンニ・ロダーリ/作 岩波少年文庫) 『ヤマネコ号の冒険 上・下』(アーサー・

ランサム/作 神宮輝夫/訳 岩波少年文庫) 『賢者ナータンと子どもたち』(ミリアム・プレスラー/作 岩波書店) 『木曜日に生まれた子ども』(ソーニャ・ハートネット/著 金原瑞人/訳 河出書房新社)

『リンゴのたねをまいたおひめさま』(ジェーン・

レイ作・絵 徳間書店)

王さまが、もう若くないから国をおさめる後とりを決めようと思って、3人のむすめに、七日のうちに一番すばらしいことをした者がこの国をおさめることにしよう、と言いました。

上の2人は月と星にとどくとう(塔)をつくりました。一番下のセレニティひめは、死んだおかあさまのきぬのふくろからリンゴのたねをとり出して地面に埋めました。2日目にはナシのたね、3日目にはオレンジのたね、4日目にはサクランボのたね、5日目にちかくのそまつな家からヨゼフという男の子がプラムのたねをくれたので、それもまきました。村の人もみんな手つだってくれました。6日目にはオリーブのたね、まいたたねが7日目にはみんなめが出て、おしろのまわりは小さな木がいっぱいはえてきて、うっすら緑色にそまりました。でもまだこれではおとうさまに見せられない。そこで、おかあさまのさい後にのこったナイチンゲールの歌声を小さなリンゴの木に聞かせてあげました。すると次の日、何とあたりはみわたすかぎり大きく育った木々の緑が広がっていました。

それに気がついたのは王さまでした。王さまはそれを見てとても心がなごみ、2人のおねえさんのとうより、緑の野原を気に入ってセレニティを後とりに決めました。

2人のおねえさんも野原に横になってしあわせでした。

私は、2人のおねえさんがとうを作るのに、村人をおどかして作らせたのとはちがって、セレニティは人々が自然に手伝いたくなるやさしさを持っていたから、後とりになれたのだと思います。絵本にしては少し字が多いけど、絵がきれいなので、読むことをおすすめします。

(世田谷区立松原小3年 中家千花)
